

歴史探訪 Part II - ②⑥

江戸川木材工業株式会社

顧問 清水 太郎

明治は遠くなりにはけり と云われたのはいつまでのことか、今年が平成最後の年となり、数ヶ月後は、新しい年号となります。

去る1月24日、ある会合で「2020 五輪」を見据えた東京の都市づくり「都市づくりのグランドデザインの実現に向けて」とのテーマで東京都都市整備技監・上野氏による講演がありました。東京に於ける都市づくりの目標は「活力とゆとりのある高度成熟都市」で、2040年を目標時期として東京の未来を創ろうとしています。

重点強化拠点は下記のとおりです。

- 1、大手町、丸の内、有楽町地域(大丸有)
- 2、渋谷地域
- 3、品川地域
- 4、虎ノ門地区
- 5、新宿地区

大丸有地域 は東京駅の使われていない容積を周辺の地域に販売し、その価格で東京駅はリニューアルが完成、周辺の地域は取得した容積で土地を有効に活用し、双方ウィンウィン(Win-Win)の関係で区域面積 120ha、就業人口 28万人、敷地 66haに建物延床810ha 101棟の建物が完成します。

品川地区は山手線に新駅(高輪ゲートウェイ)が出来、JRの鉄道の敷地を有効に活用し、余った敷地を活かして多くの建物を建てます。品川駅の地下90mにはリニア新幹線の始発駅が出来ます。

新宿地区の開発状況の写真を見ておりましたら、新宿西口駅前広場にある地下駐車場は、私がゼネコンに勤務していた時、携わった現場の完成した姿でありました。50年以上前の世界にタイムスリップして大変懐かしい気持ちになりました。当時、屋上緑化等を提唱したコルビジェという大家の弟子で坂倉順三なる建築家によるデザインで西口広場に地下駐車場を造り、浄水場を地下に埋め、地上に超高層ビルを建て、都庁はじめ副都心が完成しました。私は淀橋変電所から地下にシールドという大きな茶筒のような機械を地下に入れ、副都心へ電力を送る電線を収納する大きなパイプを埋設する工事にも携わりました。都庁のビルを設計した丹下健三氏は東京五輪競技施設を収納する建物を太いワイヤーで屋根を吊る構造でつくり、少年時代その工事を見ていた隈研吾氏が国立競技場を設計し、2020五輪のメインスタジアムが間もなく完成します。

東京ベイエリアビジョン(仮称)は、築地、晴海、豊洲、有明、台場、青海地区等があります。この地域に2020五輪競技場、選手村等が建てられます。築地にあった市場は豊洲に移転して、ようやく開業しました。数日前『プラタモリ』が豊洲にやってきました。水陸両用車が周辺の水面を巡航しておりました。私は「有明をよくする会」メンバーとして大阪周辺を視察に行き、水陸両用車に始めて乗りました。豊洲と有明の間に3本の橋がかけられましたが、『プラタモリ』の一行が木遣り橋に差し掛かったとき、その

橋の命名に関わったことを懐かしく思い出しました。命名委員長は将棋の名人米長氏でありましたが、私が有明町会として応募した案が選ばれました。橋側面には地元の小学生の揮毫により漢字とひらがなで両面に記されました。木遣りとは、水面に貯木された丸太を川並という筏師が過酷な状況でもチームで筏を動かす際、皆で心を合わせて掛け声をかけますが、節をつけてかける声が定着して木遣りとなりました。今は、筏師は殆ど見られませんが、元筏師で構成された木遣り保存会があり、おめでたい席などで呼ばれて詠うこともあります。木遣り橋の開通式には保存会の面々が来て伝統の衣装をまとうて木遣りを唄いながら渡り初めを行いました。昔あった木工団地、東京ガスの敷地は新市場が開業し超高層ビルが林立し、新しい街づくりが進んでおります。有明に在ったUR都市機構の土地は希望価格の1.5倍で大和ハウスが買い、5階建ての近代倉庫が建ち、AI化の先端企業に賃貸されます。

以上、東京の将来について展望してまいりましたが、2020五輪を契機としてビジョンは描かれておりますので、新年号の時代は、平成生まれの世代が必ず夢を実現してくれるものと期待しております。



選手村

都営大江戸線「勝どき駅」下車徒歩約10分

東京臨海新交通臨海線ゆりかもめ「新豊洲駅」下車徒歩約20分

出典：公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

<https://tokyo2020.org/jp/games/venue/olympic-village/>